

二〇二一年度大学院博士前期課程一般入学試験（第Ⅲ期）問題

研究科名	文学研究科 人文学専攻 哲学歴史学専修
科目名	選択問題（No. 1）

歴史学を専攻する者は以下の問いに答えなさい

次の文書を読んで、問1～7に答えなさい。

譲与 実子弥丞冠者分所領事
合

一、安芸国都宇庄地頭職・同所職等事

一、阿波国板西下庄内小笠原十郎泰清跡地頭職・同所職等事

一、備前国裳懸庄地頭職・同所職等事

一、鎌倉米町在家一字跡

右、件所領等、任譲状可知行也。至 鎌倉殿御公事者、祖父法名守被充置率法、無懈怠可令勤仕也。但如此雖譲与、定心存生之間、於背所命者、可悔返也。仍為後日沙汰、讓状如件。

正応二年二月十六日

沙弥（花押）

一（裏書、異筆）

謀書之由、覚性代長綱申候間、

兩奉行人所加封判也。

永仁四年十月廿四日

藤原（花押）

兵庫允菅原（花押）

【出典『小早川家文書』】

問1 傍線部「安芸国」「阿波国」の読み方を記しなさい。また、これらの国々は現在のどの県に相当しますか、県名を答えなさい。

問2 波線部は返り点を省略してあります。漢字仮名交じりの書き下し文に直した上、現代語に訳しなさい。

問3 波線部の「至 鎌倉殿御公事者」では「至」という字と「鎌」という字の間に、わざと一字分の空白を設けています。それは何故か説明しなさい。

問4 二重傍線部「悔返」の読み方を記した上、その歴史的な意味を答えなさい。

問5 文書に三回出てくる「花押」の読み方と意味を答えなさい。

問6 破線部「沙弥」と「兵庫允」について、それぞれ読み方と意味を答えなさい。

問7 文書の奥の「」部分は、裏面に別人の筆で記された裏書です。また、表面の年号「正応二年」は「一二八九年」、裏面の年号「永仁四年」は「一二九六年」です。この時間的差違と、裏書の中の「謀書」という語に注意しつつ、文書全体の意味をできる限り詳しく述べなさい。

2021年度大学院博士前期課程一般入学試験（第Ⅲ期）問題

研究科名	科目名
文学研究科 人文学専攻 哲学歴史学専修	選択問題(No. 2)

哲学を専攻する者は以下の問いに答えなさい

以下の A・B から 1 問を選んで解答しなさい。なお、選んだ問題の記号を最初に記すこと。

- A 「時間はなんらかの経験から抽象された経験的な概念ではない」という主張について論ぜよ。
- B 「『善さ』は直観によってのみ捉えることができる性質である」という主張について論ぜよ。